

# 明けましておめでとうございます 2019年 新春



荻川写真クラブ 提供

広報

## おぎかわ

2019. 1. 1 第177号  
発行者 荻川コミ協  
発行人 朝比奈 富夫  
電話 (24) 5776

荻川の人口	世帯数	6,877戸
	人口	18,471人 (前年同日比+95人)
	男性	8,923人
	女性	9,548人 (2018年11月末日現在)



### 新年のご挨拶

荻川コミュニティ振興協議会 会長 朝比奈 富夫

明けましておめでとうございます。  
明治、大正、昭和、平成。人々の暮らしは肅々と引き継がれてまいりました。  
今年も、改元されてなるのでしょうか。いずれにしても、皆様のご家庭が毎日、平和で穏やかな年でありますように、ご祈念申し上げます。

平成30年、コミ協の諸事業イベント等は、皆様方のご理解とご協力のおかげで事件事故もなく計画どおり実施することができました。関係者の献身的ボランティア精神と努力のおかげと感謝いたしております。  
いまコミ協は、荻川地区の一人暮らしのお年寄り、体の不自由な人のお手伝いできればと、荻川地区社会福祉協議会の「高齢者等見守り事業」と、子供たちの地域活動への参加と住民とのふれあい等を目的とした「子ども食堂」を軌道に乗せるべく、スタッフ一同は頑張っております。

荻川駅周辺は、駐輪場等の整備工事を実施していますが、通勤者の多いこの地域住民の事件事故の無い、生活の便利のために、コミ協が中心となって皆さんの声をよく聞いて、定住人口の減らない安心な街づくりをたてていきたいと考えています。

生活用品の買い出しなどで、免許を返納したお年寄りが安心して外出できるバリアフリーな道路整備、商店の活性化など商工一体となって知恵を出しあつて元気な街にしていければいいと思います。  
芸能祭、運動会、敬老会等内容について、町内自治会からの要望を真剣に検討し、実施していく方向に取り組んで参ります。  
コミ協、コミセンの管理運営に関わる各世帯からの協力負担金の大幅な減少には、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

「荻川は二つの隣組」楽しい街。無病息災をお祈り致します。



### 新年のご挨拶

荻川地区自治会町内会長 会長 吉村 利夫

新年を迎え、御祝い申し上げます。併せて皆様の御健康と御多幸を祈念申し上げます。

昨年は自治会・町内会の活動に当たり多くの御支援、御協力を賜りましたこと感謝、御礼申し上げます。本年も宜敷く御願ひ申し上げます。

荻川地区コミュニティ振興協議会においても昨年同様、多々行事を計画されるものと推し、私共も催しが盛大で意義あります様、協力、応援に加わらせて頂きます。

昨年は新潟県知事、新潟市長選挙があり、知事には花角英世氏、市長には中原八二氏が当選、誕生しました。新しい感覚をもって、施策を立案、実施されるものと期待をしております。

一方、今年も地方選、参議院選等が控えております。春先には新潟市議選、県議選、巷間では荻川地区においても複数名の出馬が囁かれております。秋葉区の定員枠は定まっていることと察しますが行政と地区住民への有効な橋渡しを期待できる方を選び、住みよい安全安心が確保されることを願います。

荻川地区社会福祉協議会を主体とした「荻川あつたかネット」高齢者見守り事業も数年になりますが、自治会・町内会の理解、協力も進み実現に加速をみております。留まらず、手を上げ、声を出し躊躇することなく利用しましょう。住みよい郷土実現のためにも願っております。

### 新年の抱負とご挨拶

バナンドラゴンズ 稲垣 啓 太  
皆様、あけましておめでとございます。今年には私にとっても大切な一年になるでしょう。何故なら、ラグビーワールドカップがいよいよ9月より日本で始まるからです。そこまであと僅かな時間を有効に使うためにも、自分に必要な能力の詳細にこだわってトレーニングを過ごしていきたいと思っております。

日頃から応援して頂いております皆様にはとても感謝しております。少しでも声援に応えるために結果を残して、是非良い報告をさせていただきますね。今年もより一層の応援をよろしくお願いたします。



### 新年の抱負とご挨拶

中日ドラゴンズ 笠原 祥太郎

昨シーズンは、開幕ローテーションを任せられ、そしてベントレース後の日米野球にも日本代表の一員として参加させて頂き、ご褒美として勝ち投手にもなりました。本当にいい経験の出来た二年でした。

今年はその経験を生かし、開幕から二年間のローテーションに残り、チームの勝利に貢献したいと思っております。具体的に何勝とは言えませんが、年間ローテーションを守れるように心技体の鍛錬につとめ、チームからの信頼を得られるようになる事を目標に行きたいと思っております。

※私の心の支えになった物

打ち込まれる日々が続く、二軍落ちも経験、そんなとき大学時代の恩師、佐藤監督にももらった「自信」の二文字の色紙でした。クラブにもその二文字を刺繍で刻んでいます。



### おぎかわあつたかネット

◎福島県地区社協から視察

12月10日「おぎかわあつたかネット」等の視察のため、福島県二本松市杉田地区社協から15名が訪れました。荻川地区社協から「おぎかわあつたかネット」実施経緯や実施状況のほか、地区社協運営に当たっては自治会、町内会から大きな協力をいただいていることなどについて説明しました。



### ◎荻島1丁目ですタート

荻島1丁目では、10月から「おぎかわあつたかネット」(高齢者等見守り事業)の取り組みを開始しました。これで「おぎかわあつたかネット」実施の自治会町内会は12となりました。

また、10月～11月に荻島2丁目、車場1丁目、車場5丁目で連絡会議を、11月22日に車場2丁目ですタートを開催していただきました。(荻川地区社協)

### 恒例の

### 「男の料理教室」開催

11月11日(日)年1回の料理教室に、15名の参加がありました。今回のメニューは、マスタードチキンステーキ、キュウリと大根とキムチのサラダ風、ジャガ芋のピザ、麻婆白菜の温泉卵のせの4品です。

フライパンが2つ有ればできる割合簡単なものでした。なかでも白菜のざく切りや、にんにく、生姜、ネギのみじん切りなど、とても手早く何だかとても楽しそうでした。出来上がった料理を皆で囲み、ほんの少しのビールでカンパい。「料理って、ちょっとおもしろいな」と思ってもらえたら嬉しいです。(女性部)



### H30年度 コミセン避難訓練

11月29日(木)に火災による避難訓練・消火訓練・通報訓練(事務局)を実施しました。コミセンでは通常7月と11月の年2回訓練を実施しています。



避難の後の消火訓練で、訓練参加者は専門家より初期消火の注意事項と消火器の使い方を教わった後、実際の消火器を使い真剣に訓練に取組んでいました。また、放水訓練では、消火栓の使用手順を間違えたと使えないことや怪我をする場合もあり日頃の繰り返し訓練の大切さを実感していました。



## みんな集まれ!! 第19回 荻川ちびっ子雪まつり

☆日時 平成31年2月3日(日曜日) AM10時より  
☆場所 荻川コミセン体育館と隣の西公園

(参加費不要です)



スコップ  
そりももって  
きてね

そい遊び  
宝さがし  
豆まき

雪がなくても  
やります!!



主催 荻川コミュニティ振興協議会  
共催 荻川地区スポーツ振興会  
協賛 セブンイレブン新潟荻島店

### 第37回 荻川地区親善卓球大会

10月28日(日)荻川コミュニティセンター体育館を会場にて、91名(男性81名、女性10名)の参加で開催されました。春の大会よりも参加者が増え体育館は大勢の熱気の中、熱戦が繰り広げられました。

- 一般A 優勝 布川 嘉一
- 準優勝 八木 響太
- 一般B 優勝 木津 時夫
- 準優勝 佐々木 国生
- 一般女子 優勝 長谷川 侃枝
- 準優勝 山崎 智香子
- 中学二年男子 優勝 窪田 翔
- 準優勝 篠取 直英
- 中学一年男子 優勝 鈴木 混人
- 準優勝 佐々木 珠大



### 第64回 荻川地区親善 バドミントン大会

11月11日(日)荻川コミュニティセンター体育館を会場にて、68名の参加で開催されました。回を重ねるごとにレベルが上がって白熱した戦いが繰り広げられました。

- 男子ダブルスA 優勝 加藤 齊藤組
- 準優勝 阿部 渋谷組
- 男子ダブルスB 優勝 佐久間 伊藤組
- 準優勝 江口 嶋川組
- 男子ダブルスC 優勝 上杉 古川組
- 準優勝 渡辺 広川組
- 女子ダブルスC 優勝 網嶋 加納組
- 準優勝 土屋 友坂組



### 第68回 荻川地区 バレーボール大会

11月18日(日)荻川コミュニティセンター体育館を会場にて、8チームの参加で開催されました。中学生も加わり荻川チームをつくりA・Bの2ブロックでにぎやかな対戦となりました。

- Aブロック 優勝 みそら野 Aチーム
- 準優勝 あおば通 Aチーム
- Bブロック 優勝 結チーム
- 準優勝 荻川チーム



### 地域ふれあい事業 ふれあい昼食会

11月8日(木)にふれあい昼食会を、咲花温泉いろりの宿「平左エ門」で実施しました。対象は中野町内居住で65歳以上の一人暮らしの方で、今年は19名の皆様と民生委員、町内役員で楽しい二日を過ごしました。



### インターネット・スマートフォン活用講座

11月14日(水)に荻川コミュニティセンターにて、講師に一般財団法人インターネット協会大久保真紀氏をお迎えし、子どもたちのスマホ・ネットの利用の実態や、高齢者初心者に対する注意事項についてお話をいただきました。中学生をもつ親としては、フィリタリングやルール作りの大切さを感じました。(文化教養部)



### 後期生涯学習講座

平成30年度の後期講座が10月27日(土)を皮切りに開催されました。

第一回目は、四尺玉花火で有名な片貝煙火工業 本田正憲社長より、「花火よもやま話」という題で、花火にまつわる様々な話を自身の体験を踏まえてお聞きする事が出来ました。これからの花火を觀賞する時の楽しみがひとつ増えた思いました。受講生は43名でした。



第二回目は、11月17日(土)「東洋大学」三浦節夫教授に東京よりお越しいただき、受講生50名で、明治の「無私」の精神「勝海舟と井上田了」と題して講義いただきました。

井上田了師は東洋大学の創立者で長岡出身という事、勝海舟翁との縁・関わりについて、又両人に共通の私を無くし公に尽くすという精神について当時の時代背景も交え分かり易くお話をいただきました。先生より時折の受講生への問いかけも有り、多少の緊張感の中でも笑い絶えない2時間でした。



## 道路側溝清掃の取組紹介

近年、少子高齢化に伴い、町内でも側溝清掃等町内活動に支障が発生しています。  
側溝清掃の対策として、車場5丁目1組で取り組んでいる活動を紹介いたします。

### 1.背景

- ◇コンクリート蓋が重く、個々の家庭で実施することが難しい状況
- ◆空屋、高齢者住宅が発生
- 側溝は、連続して泥溜りしていると連続排水ができず排水効果がない

### 2.新たな取組

1組全体を3ブロックに分け、組内全員参加で3年で繰り返す方法です。  
今年、ブロック(1)、来年は、ブロック(2)、再来年は、ブロック(3)の順で全員で実施。  
平成26年から実施

### 3.実施状況



### 4.効果

実施から、今年で5年目ですが、組全体で実施すること隣人とのコミュニケーション向上、災害時の助け合い精神が図れています。

車場5丁目町内会長 武江 義則

## お知らせ・情報

### コミセン正面玄関入口等の冬囲い

11月11日(日)、環境整備部員15名による、コミセン正面玄関入口・体育館脇・本館裏側等の冬囲いが行われました。  
当日は天候にも恵まれ部員の献身的な作業により綺麗に冬囲いが完成しました。  
(環境整備部)



### 花壇植栽

「車場5丁目花を愛する会」では、11月11日有志15名が参加し、通称車場6番通り、コミセン通りの街路樹下花壇に春に咲くピオラ、パンジー、チューリップの花苗、球根等の花植を行いました。



## 平成31年度“荻川歩こう会”新規会員募集

毎月1回、日帰りの軽トレッキングを楽しみながら親睦と健康増進を図る団体です。なお、年1回は1泊の山行きなども計画しています。  
会員の年齢は60代が中心です。心地よい汗をかいた後は温泉につかり親交を深めませんか。入会をお待ちしております。  
平成31年度は、4月から行事を開始しますが、具体的な計画先は「広報おぎかわ」3月号でお知らせ致します。  
入会申込は、下記宛てをお願いします。

### ●入会申込先

城山哲夫(携帯 090-6544-9509)  
金子千鶴(携帯 090-2302-6798)

### ●年会費 1,500円

名札代 1,000円

計2,500円が必要になります。

### ●往復とも原則、バスを利用します。



## 会員募集コーナー

### 平成31年“荻川写真クラブ”会員募集

下記のような活動をしています。

#### 1.月例会

原則として、毎月第3土曜日午後1時30分～(見学可)

講師による講習会

講師は新潟県写真家協会会長 県展委員  
公益社団法人 日本写真家協会会員  
山田昌男 先生



初心者も歓迎!  
コンパクトカメラでも大丈夫!

#### 2.コンテストに挑戦…県展・芸展・市展・区展など

#### 3.会員展・コミセン文化祭・荻川駅ミニギャラリーなど

#### 4.新津美術協会写真部に協賛

#### 5.会費…年額 8,000円(中途入会月割り納入)

連絡先…金子(090-2302-6798) 大原(090-2244-9666)

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

今年、平成から新しい元号に変わる年となります。

昭和から平成に変わり三十年が過ぎました。振り返れば、色々な事があった中で、中越地震や東日本大震災等々の大災害が多く発生したことが思い出されます。

昨年も全国各地で多くの災害が発生し、尊い人命が失われてしまいました。荻川地区においても、火災により二名の方の命が失われてしまいました。

災害はいつ襲ってくるかわかりません。地震、大雨、台風など多くの災害が考えられます。災害に対する危機管理意識を高め「自分の身は自分で守る。」という考えを常に持ち続け、災害に備えた

ものです。

(H1)